



書家 加藤裕さん作『久遠』

真宗高田派
賢隆山久遠寺

〒460-0007

名古屋市中区新栄1-4-6

Tel & fax 052-241-5231

www.kuonji.net

kenryuzan-kuonji@nifty.com

久遠寺住職の



いま不思議ないのちを生きている!

今年も蒸し暑い夏でした。しかし、九月に入ると残暑も無く、朝晩も涼しくなり、極端に夏との差を感じさせられます。

日本の所々でゲリラ豪雨やスーパー台風と呼ばれる言葉が、何度も新聞、テレビで報道され、その都度大きな被害となりました。その際には、多くの犠牲者がでて、悲しい現実を突き付けられました。科学技術知識の進歩した現代において、全てのことに対応できることが可能である」と、想像確信していたことが、人知を超えた自然の量りしれない大きな力をまざまざと見せつけられたように感じます。災害の事故処理に追われつつ、原因は何であるか」と問われた時、まず

- 第一に地球の温暖化により海の温度の上昇
- 第二に高層ビルの乱立により風の流れの悪化
- 第三に道路の舗装によつて下水道の容量限界

中日新聞」より

これら3つの原因こそ、資源を求めた結果の表れなのではないでしょうか。過去の人々は、山に対し、海に対し、畏敬の念を持つておりました。敬い感謝あることが先祖からの教えであり、自然の大きな恩恵みに生かされていることを、現実の痛みを通して気付かねばならないのであります。

今こそ科学技術を作り出した人間そのものを問わねばならないかもしれません。便利さ、簡単さを求め、また物質にはキリがないと勘違いをしている現代。

- 汝自身を知れ」ソクラテス
- 諸行無常 縁起の法則」お釈迦さま
- 自然の法」親鸞聖人

これらがもたらす答えこそ、生きとし生けるものが共に生きるには方法「方(人間)が横着とすれば、他方(自然)も暴れること」をお教え下さいます。

よつて今苦悩している人間を省みると、過去に起きた事件のことを忘れ過ぎ去つていき、本当の自分からなくなり、落ち着く場所を見失っています。さらに、時代の流れについて行こうとすればするほど、主体性を失い、不安を一杯抱えている現実が突きつけられるのではないのでしょうか。

ガンで亡くなられ、入院生活を通して、今を生きている大切さを伝えて下さった方の言葉をお伝えします。
お医者があと三か月と言ってくれる。あとまた三か月あるというのは、うれしくもない。私にとつては今が、今が、うれしい。今うれしい一瞬があるからこそ、その今の延長である三か月を喜べる。たとえあと三か月あるとしても、今の今が喜べないなら空しいと言われ、いまを忘れ続け生きている自分に、尊い今を教えてください。今を大事にし、与えられた命に感謝しましょう。

死を忘れると生がぼやけてくる」青山俊董師
死の自覚が生への愛だ」田中美知太郎
ギリギリを味合わないで本当の自分の起っている場所がわからない、またいのちが私の所有物になる。また、人間は前方に死があることを知ると、足が前に進まない。そこで、人間は死が見えないように目隠しのスクリーンを立てて、それに向かつて突進するのだ」パスカル

世の中は常に変化し、その変化を人間は拒むことはできません。ことを仏法は教えてくださいます。

起り得る現象は、縁によつて生じ、縁によつて消えゆく。故に同じ状態が続かない。いつでもできるはず、いつまでもしない故に今を大事に過ごしましょう。

「大事とは今日ただいまの事なり」

当寺住職 高山元智

おあじわい

～ほうごカレンダーからいただく～

十月

にだ念仏

念仏

大慈回向の

南無阿弥陀仏



阿弥陀様の世界として、3か月の法語をまとめ、お味わいさせさせていただきます。

人間は未来ばかり追求し、過去を忘れる傾向があります。先に往かれた祖父母、また苦難を通してつかり生きて往かれた方々の道を尋ねて、我々がこれから歩む道とせねばなりません。

十一月

衆生に

かけられた大慈悲は

無倦である



人間の願いは、毎日変わつていきます。虚しさ、不安、思いどおりにならないと自己中心の考えでは、本当の声は聞こえてきません。

その思いを打ち砕いたのが、阿弥陀様の願いであります。阿弥陀は無量光、無量寿を成就された名であり、全てのものに平等でいのちそのものを教え、本当の智慧とは何であるか」を誓われた名であります。故に阿弥陀仏の歴史は、人間を本当の自分自身に帰らせようとするはたらきであり、願いでもあるのです。



阿弥陀様の世界として、迷つて迷つていくことが、己に阿弥陀様の喚び声であるのです。ですから聞法することは生そのものを問う事でもあります。我々は親が生んどうというけれど、そうではないで、親を縁としてでてきた本能です。その本能が娑婆へ出て釈迦の説法に遇いたいというそういう願いを持って生まれたのです。その他に何にもない」

十二月

永遠の

与えてくださるのが

南無阿弥陀仏の

生活である



人間は、幸せを外に求めるので、内なる本当の声が聞こえません。自分の悩み痛み、病気の事実の世界からは逃れられないからこそ、その世界を抜け出た人々の声を聞きましよう。その声の証である「救つてやるぞ」との教えこそ、阿弥陀様の願いであります。

今、自分の頭でじっくり考えても考

己になつる世界を開く。そのままこのままではない」と仰り、日々私の思いに苦しんでいる私に、仏様より願われている身である事を聞法を通して気付かされるのであります。自分自身の人生を理性で解釈できるときは、仏法の教えは要りません。人と人との違いのまま、今を乗り越えて生きて往ける世界であり、競争社会で自分の能力の有限なることを教えてくれるのが、南無阿弥陀仏」の歴史であり、無限なる世界であります。

第三回「古本勸進」の報告



古本勸進ロゴマーク

七月から八月末まで、第二回「古本勸進」を企画し、活動してまいりました。ご協力下さいました皆様、本当に有難う御座いました。今回の結果

218冊 3123円

は前回「前々回」には及びませんでした。皆様のお気持ちをお預かりし、ちゃんと送り届けることができた勸進であったと思っております。

地道に「コツコツ」と皆様の負担にならないように少しずつでも送れるように、今後もっと協力をよろしくお願ひ申し上げます。

久遠寺「古本勸進」はいつでもお受けしておりますのでいつでもお問合せ下さい。お会いすれば、古本あるから持つて来い」との皆様からの声が力になることを、心より願っております。

南無阿弥陀仏

久遠寺の揭示板



8/30『街のお寺の音楽会『安穩』』vol.2

私のものでなく、
問うのではなく、
私のものでなく、
問うのです』

自分の物事を見る目は、その時の状況や感情で長くなったり、目盛が変わったりしてばかり変化していきつくりで常に変化しているものさしなのです。
そんなあやふやな尺度で物事を計るのではなく、自分自身のもので、自身体どういうものかを知らねばなりません。
そして、自分のものさしを計るものこそ、仏様のみ教えであります。
絶対の揺らぎがない安定感ばかりな物差し、寸分違わぬ物差しで、私の物差しを見てみる
どの点が不安定だったのか、一目瞭然なのではないでしょうか。



『雪山報恩講特別企画』 金子みすゞ一人舞台

金子みすゞさんは

金子みすゞさんは、明治三十六年、山口県仙崎村 現在の長門市に生まれ、大正末期から昭和初期に優れた詩を発表されました。西條八十に「若き童謡詩人の巨星」とまで称賛されながらも、昭和五年、二十六歳の若さで世を去りました。
没後その作品は散逸してしまい、幻の童謡詩人と呼ばれましたが、矢崎節夫氏の長年の努力により遺稿集が発見され、金子みすゞ全集が発行されました。みすゞさんの優しさに貫かれた詩句の数々は、今確実に人々の心に広がっています。

そんな金子みすゞさんを演じるのは、保谷果菜子 浦上智子(さん)さん。演劇集団「円」養成所卒業後、舞台を中心に活動。ご縁あって浦上哲也住職と結婚され、演劇を通して分かりやすく仏教を伝える活動を共に始められました。今では全国を飛び回り、累計百回を超えた「金子みすゞ一人舞台」だけでなく、親鸞聖人の奥様「恵信尼さま」の舞台も手掛けられています。
横浜の布教所「なごみ庵」からご住職ご夫婦をお招きしての当山報恩講での特別企画となります。是非、ご都合をつけての御参詣を、心よりお待ちしております。

百日紅の花



『愛嬌』

『百日紅』と書いて、読めは「ユルズリ」。
ミンナギ科の落葉小低木です。
中国から日本にもたらされたのは、室町か安土桃山の戦乱の頃の頃と言われています。漢字で書いた通り、咲き始めるとその花期は長く、3ヶ月近くの間、夏の炎天下をものこもせず、「元気に咲き続けます。けれども、春の

芽吹きは遅めのお寝坊さんです。そのお花が終つた後は今度は早く葉を散らせて冬支度に入ってしまう切り替え上手。暑い夏を過ごす間、元気に花咲く姿も実は「愛嬌」かもしれませんね。
また来年の夏境内で咲く百日紅の花を是非ご覧ください。

久遠寺の日日是好日～写真付日記～



10月の報恩講前準備で、9月末から庭師さんに来て頂き、境内剪定中です。当日には、とってもサツパリ、スツキルで、当山報恩講でご来寺いただく準備万全です!

境内に7つある蓮鉢から、25ヶもの蓮の華が見事に咲きました。華が散った後の『蓮の実』でお念珠を製作。皆様のお念珠もお直しますので、お問い合わせください。

最近の流行遊びは、兄弟二人での「お坊さんごっこ」や「法話ごっこ」。輪袈裟をつけたり、お念珠をもったり、お経様はまだ読めないけれども、合掌はお手の物?(笑)

9/12 高田本山の朝のお勤め後のお説教を勤めて参りました。緊張の中でのお話でしたが、ご聴聞の温かさに触れ、何とかお話しして参りました。お育てしていただきます。

境内掃除をしていると付き人ならぬ付き猫が寄ってきます。飼っているわけではありませんが、何とも居心地がいい様子。猫だけにはもったいない、是非ご来寺下さいませ。

お寺でイベントを開催する想い

～楽しく笑顔になれる寺を目指し理由～

皆様、もうお気づきと思いますが、今季より私(信雄)の知り合い関係やご同行様のご紹介などを受けてのイベントを企画・開催しております。

そもそも寺でイベントをする必要があるのか、このお声を受ける事は間違いないですね。けれども世も移り変わりの速さに、時代が求める寺の在り方を少しずつ模索していかねばならないと感じておりました。

そんな中、関東を中心に活動している「まちのお寺の学校」というプロジェクトに東海地区初参加することになりました。この「まちのお寺の学校」は、お寺を舞台に、学びたい人と教えたい人が集い合う「まちのみんなの学校」です。心と身体を調べたり、知らなかつた視点や発想と出会ったり、ご近所さんと顔見知りになつたり。お寺を中心に縁つながら作り、楽しく笑顔になれる寺を目指しています。

お寺は古来、地域の拠り所であり、心に栄養を与え、心と身体を調える場だということです。だからこそ、お寺をもっと気軽に楽しく温かい場にしたい。まちの縁側のような居心地の良い拠り所が生み出したいと願い、イベントを企画開催する理由であります。もちろんお檀家様に支えられての寺であることも承知しております。

是非皆様に参加していただけたような企画もしながら、お檀家様が安心できるお寺を継続して勤めて参りますので、何卒ご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

当寺は「ありがとう、すみません、おかげさまを伝え、あなたと私たちのこころがめぐる、笑顔になれる寺」を目指しています。

その中で、何かを「寺」で教えたい人、学びたい人、みんなでお寺に集ってワクワクする発想を一緒に作り上げていきたいと思っております。

何卒、お支えの程、宜しくお願い申し上げます。

別紙にて、イベント紹介をしてあります。今後「まちごとくおんじ」として講師紹介など様々な情報を掲載して参ります。そして久遠寺は皆様の寺であります。是非、盛り上げに駆けつけて下さい。心よりお待ちしております。

久遠寺衆徒 高山信雄拜

編集後記

朝晩が涼しくなり、少し運動でもしたいのですが、一歩目が踏み出せません。このままでは食欲の秋に飲まれてしまつて感傷的なの頃。皆様も体調管理にはくれぐれも気を付けてください。

衆徒

- ◎ 久遠寺ホームページ＆ブログ『シュリハンドカ』 & facebookも随時更新中です。
- ◎ お寺でやりたい! イベント企画も募集しております。是非お問合せ下さい。
- ◎ 古本と葉書は随時回収しております。是非「古本勸進」東北支援にご協力下さい。
- ◎ お経本・お念珠は大切なものです。床に直接置かないように気を付けましょう。